

(仮 訳)

プレス・リリース

2014年10月31日
バーゼル銀行監督委員会

バーゼル銀行監督委員会による安定調達比率 (NSFR) の最終化

バーゼル銀行監督委員会（以下、「バーゼル委」）は、本日、安定調達比率 (Net Stable Funding Ratio、以下「NSFR」) の最終規則を公表しました。これは、バーゼル委の上位機関である、中央銀行総裁・銀行監督当局長官グループ (GHOS) によって承認されたものです。

NSFR は、バーゼルⅢ改革の重要な要素です。NSFR はオンバランス、オフバランスの取引について、安定した資金調達構造の維持を銀行に求めることにより、当該行の破綻リスクを高める、また、より広範なシステムック・ストレスに繋がりにくいような形で、通常の資金調達源の途絶によって銀行の流動性ポジションが減じる可能性を低くします。NSFR は2018年1月1日から最低基準として施行されます。バーゼル委は現在、NSFR の開示基準を策定中であり、本年末にかけて市中協議文書を公表する予定です。

バーゼル委議長であるステファン・イングベス・スウェーデン中銀総裁の談話は次のとおりです。「金融危機の重要な教訓は、短期で不安定な調達源への過度の依存を防ぐ必要があるということでした。NSFR はこのために、不安定な短期借入を非流動的な資産の原資として利用することを制限しました。本規制の最終化を以て、バーゼル委は、その規制改革の当初の目標を実質的に達成し、金融危機後の銀行セクターの強靭性を一段と促進させました」。

NSFRの最終規則は、2014年1月の市中協議案の構成を維持しています。本日公表の最終規則に導入された主要な変更点は、以下の所要安定調達に関するものとなります。

- ・ 銀行及び非銀行金融機関に対する短期貸出
- ・ デリバティブ・エクスポージャー
- ・ デリバティブ契約において当初証拠金として差し入れられている資産

加えて、最終規則では、厳格な条件を満たす特定の資産と負債は、相互に依存しており、NSFRの観点からは中立と見なし得ることを認めています。

NSFRに関する提案は、2009年に初めて公表され、その手法は2010年12月のバーゼルⅢ合意に含まれました。その当時、バーゼル委は、同規制及びその金融市場の機能や経済への影響を徹底的に検証することとしました。2014年1月、バーゼル委は、改訂規制を（市中協議文書として）公表し、銀行のリスクの大きい資金調達構造に着目して算入率を見直すと同時に、流動性カバレッジ比率（Liquidity Coverage Ratio、LCR）との整合性を向上させ、利用可能な安定調達及び所要安定調達を計測する際のクリフ効果を軽減しました。

バーゼル委は、本件に関し、市中協議においてご意見をお寄せいただきました全ての関係者に対し、感謝の意を表明します。